

JAと地域をつなぐ支店の役割

支店力を高めよう



JAの広域化と組合員の変化

JAの広域化と組合員の変化による課題解決には、JA組織基盤の強化とアクティブメンバーシップ*の確立が不可欠です

※アクティブメンバーシップとは？

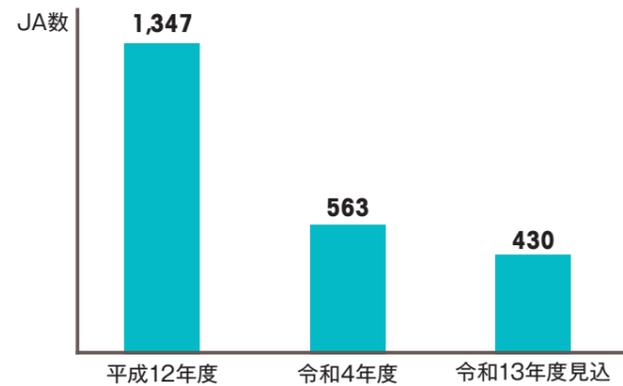
組合員が地域農業と協同組合の理念を理解し、「わがJA」意識を持って積極的な事業利用と協同活動への参加を進め、JAへの意思反映と運営参画に取り組むこと

JAの広域化

JA経営基盤の強化のために

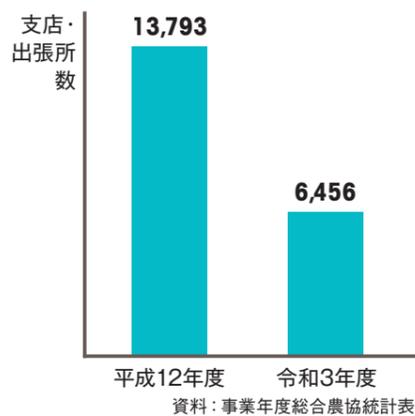
進むJAの広域化

● 平成の大合併から令和の大合併時代へ

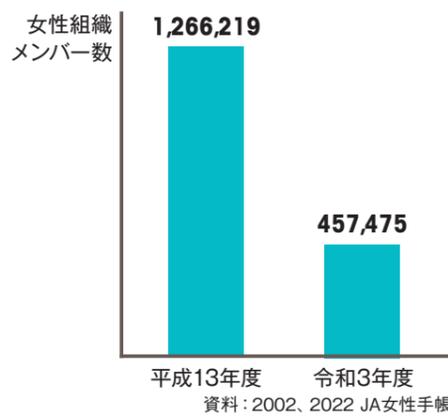


JAの広域化が進むと、地域ごとに異なる特性によって、抱える課題やニーズが大きく異なっていきます。そのためそれぞれの地域性を考慮した対応が必要になってきます。

● 支店・出張所の設置状況



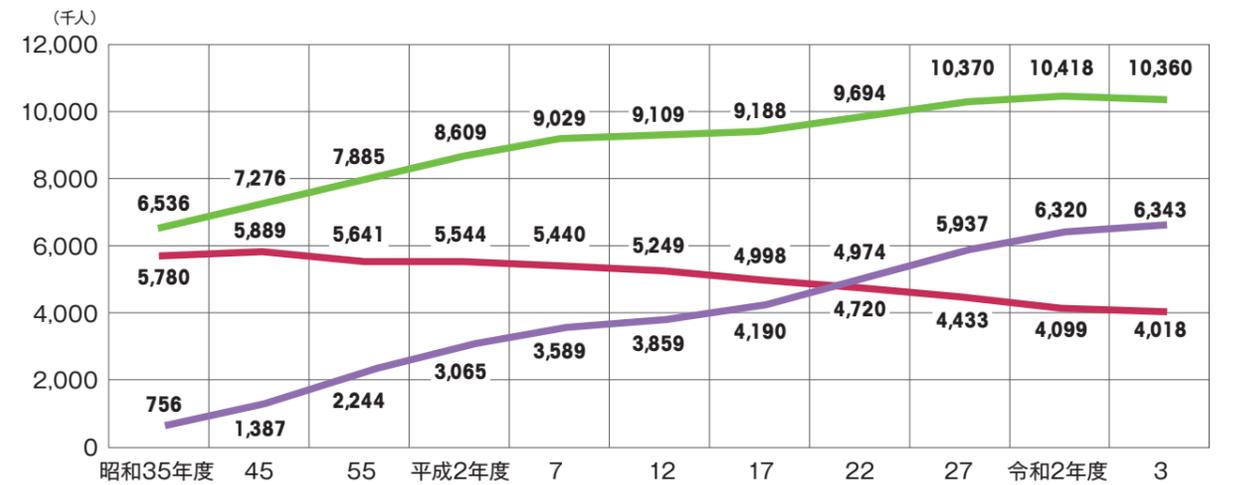
● JA女性組織支部および女性組織メンバーの減少



各地域のJA組織活動を支える女性組織メンバーの減少、活動の拠点となる支店の減少といった問題に対しては、組織基盤を強化するための方策が必要になります。

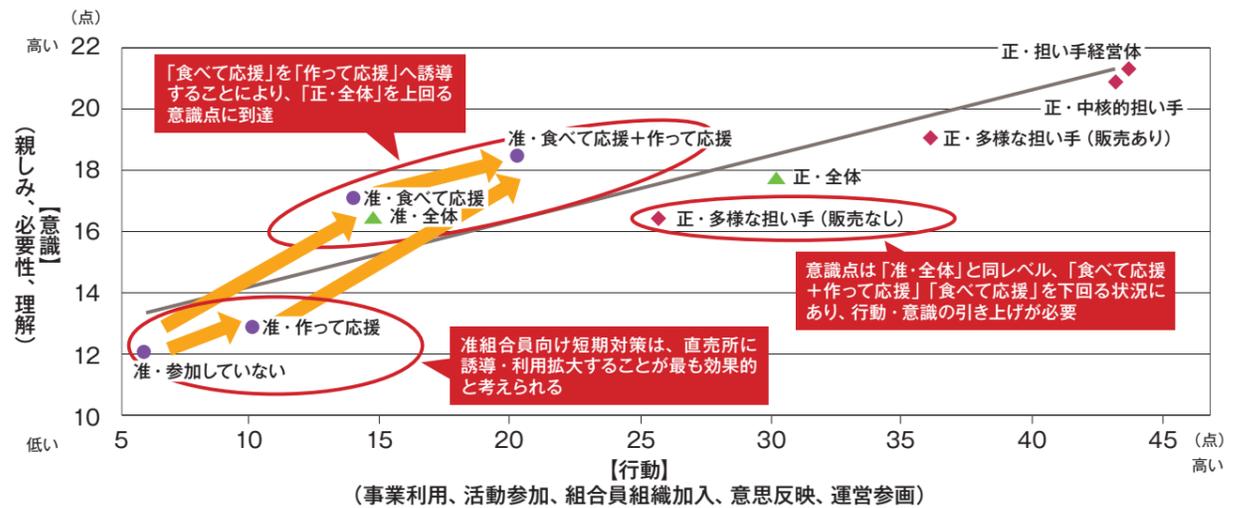
組合員の変化

● JAの組合員数の推移



平成22年度を境に、准組合員数が正組合員数を上回っています。JAは組織基盤の強化を考える際に、正組合員だけでなく准組合員に対するアプローチも考えなくてはなりません。

● 組合員のJAに対する意識・行動の変化



准組合員は地域農業との関係強化が進むと、農業振興の応援団になるとともに、JAへの意識も正組合員と同等かそれ以上に高まるという結果が出ています。また、正組合員でも販売がなくなり、JAとの農業面のつながりが希薄化すると、意識も行動も低くなることが見て取れます。

- ◎ 組合員の意識や行動に対応した関係性の強化方策によって、アクティブメンバーシップの確立を進める必要があります
- ◎ 正組合員・准組合員それぞれに対してJAへの意識を高める方策にはどのようなものがあるかを考えてみましょう

JA経営層の教育文化活動への認識

JA経営層(常勤役員)に実施したアンケートから、JAの組織基盤強化とアクティブメンバーシップの確立にはJA教育文化活動が有効であるというJA経営層の認識が見えてきました

出所：(一社)農業開発研修センター「JAの教育文化活動が経営成果に及ぼす影響に関する調査研究(2022年)」(全回答数223人・%はすべて不明回答を除いた回答数)報告書より

1 JA教育文化活動の取り組みで効果があると感じられること **トップ3**

回答JAの組合員数	1万人未満	1~2万人	2~3万人	3万人以上	全体
1位 女性組織、青年組織等の活動の活性化	69.0%	71.8%	73.0%	76.1%	72.4%
2位 組合員の農業や協同組合に対する理解促進	52.4%	50.7%	54.1%	69.6%	56.1%
3位 職員と組合員との「顔の見える関係性づくり」	42.9%	49.3%	54.1%	63.0%	52.0%

JA教育文化活動は組織基盤強化(組合員組織の活性化)に貢献していると考えられている。そして、**JAの規模が大きいほどその認識は高くなる**(注釈:「全体」より比率が高いものに網かけ)

2 「組合員のJAへの結集」にプラスの効果がある教育文化活動の取り組み **トップ3**

JAまつり等のイベントはJA理解の入り口になっていると認識されている

1位 組合員、地域住民を対象とした教育文化活動 (JAまつり・スポーツ大会・親睦旅行・各種文化講座・講演会・歌謡ショーなど)	回答数111人	69.4%
2位 組合員を対象とした教育文化活動 (総代研修・組合員講座など)	回答数93人	68.4%
3位 青壮年組織・生産者組織を対象とした教育文化活動 (作目研修・組織リーダー研修など)	回答数90人	60.4%

3 「信用(貯金)事業」にプラスの効果がある教育文化活動の取り組み **トップ3**

高齢者対象活動は信用事業に好効果を生み、准組合員・地域住民向けイベントにも**一定のプラス効果があると考えられている**

1位 高齢者を対象とした教育文化活動 (年金友の会・健康セミナー・ゲートボールなどのスポーツ)	回答数108人	69.7%
2位 組合員、地域住民を対象とした教育文化活動 (JAまつり・スポーツ大会・親睦旅行・各種文化講座・講演会・歌謡ショーなど)	回答数67人	41.9%
3位 次世代、准組合員を対象とした教育文化活動 (新規加入組合員研修・准組合員のつどいなど)	回答数45人	34.4%

4 「共済事業」にプラスの効果がある教育文化活動の取り組み **トップ3**

地域住民向けイベントは共済事業に**一定の効果があると考えられている**

1位 組合員、地域住民を対象とした教育文化活動 (JAまつり・スポーツ大会・親睦旅行・各種文化講座・講演会・歌謡ショーなど)	回答数63人	39.4%
2位 子どもたちを対象とした教育文化活動 (食農教育・農業体験・親子料理教室など)	回答数51人	31.5%
3位 次世代、准組合員を対象とした教育文化活動 (新規加入組合員研修・准組合員のつどいなど)	回答数41人	31.3%

JA経営層の持つ教育文化活動への期待と課題

- 大規模なJAの経営層ほど、教育文化活動の効果を認めています。しかし、裏を返せば広域化と支店統廃合が進むほど、組織活動の弱体化や協同組合への理解低下、組合員との距離という問題(悩み)が出てくると言えそうです。
- 支店ごとの地域性やニーズが大きく異なる広域化した大規模JAでは、本店一括での教育文化活動の管理は困難です。組合員組織の活性化による組織基盤の強化、活動への参加を通じて育てていくアクティブメンバーシップの確立は、支店を核に地域色を活かした活動を通して実施していく必要があるでしょう。

支店における JA 教育文化活動の展開

JAを支える各支店単位の組織



- 1 支店単位の各組織はJAの事業実績を支える協同活動の基盤です。常に活性化し続けられれば、基盤の弱体化を防ぐことができます。
- 2 組織の活動を把握し要望に応えることで、支店は支店独自の地域性やニーズを踏まえて組合員の意見を取り入れることができます。
(組合員はニーズを満たす活動ならお金を払ってでも参加したいと思っています)
- 3 組織の活動や会合に支店施設を使うことで、支店が組合員のよりどころになっていきます。
(女性組織の小グループ活動は、支店をよりどころに自分たちのやりたい方法で行なわれる、ニーズにかなった活動です)
- 4 活動場所を提供することで、活動外でも気軽に来店できる意識づくりになります。

支店をよりどころとするJA教育文化活動

- 「農協にお世話になった」「農協で楽しいことがあった」と思ってもらえる活動が親近感を醸成し、JAのファンを育て、事業利用を促進します！
- 教育文化活動は、JAが総合事業と協同活動で組合員と地域住民の幸せづくりをしていることを「さりげなく」知ってもらえる活動でもあります。
- 支店単位の各組織と連携して活動を実施することにより、組織の活性化による組織基盤強化や活動参加を通じたアクティブメンバーシップの確立をめざしましょう。
- 全国各地の支店で独自に実施されている活動事例を紹介します。

支店調理室での料理教室
・JA新みやぎ 田尻支店

組合員が支店に足を運ぶ取り組み

来店したくなる支店の活動「JALまねおもてなしプロジェクト」家の光記事活用作品展示などの支店美化活動
・JALまね 各支店

女性大学の開催
・JAとびあ浜松

支店会議室等を活用した目的別グループ活動（手芸教室）
・JA筑前あさくら 夜須支店

地域住民を対象とした支店感謝祭（支店まつり）の開催
・JA東びわこ 愛知川支店

支店内での農産物販売
・JAいずみの 南掃守支店

健康で美味しい地元野菜を使った離乳食教室・幼児食教室
・JA福山市 直売所併設クッキングスタジオ

出前授業や学童農園での農業体験写真をJA支店に展示し親子で見に来てもらう
・JA福井県 永平寺支店

准組合員・地域住民が支店に足を運ぶ取り組み

組合員の意志を支店活動に反映する取り組み

組合員の声を受けた計画を確実に実施するための支店協同活動実施計画書
・JA香川県 各支店

支店（店舗）運営委員会を設置して組合員の声を聞きニーズに合った活動を実施
・JA筑紫 各支店

支店アンケートの実施でニーズを把握

活動の内容や結果をお知らせして参加を促す支店だよりの発行
・JA菊池 西合志中央支所／大津中央支所

広域化したJAの支店長に求められる役割

広域化したJAの支店の環境

- JAの広域化によって1支店あたりの管内も広域化することで、支店長はより大きな視野での支店マネジメントが求められます。
- 金融店舗化した支店では支店長の役割は信用・共済が中心になりつつありますが、組合員・地域住民との関係性づくりには、管内の特色と地域性を踏まえた支店独自の教育文化活動を実施することが有効です。

広域化したJAの支店若手職員の環境

- 金融店舗化した支店では、組合員との協同組合らしいコミュニケーションが、日常業務の中で少なくなっています。
- 関係性を作るための組合員訪問活動でも、何を話したらいいかわからないという若手職員も増えているようです。コミュニケーションの苦手意識から、あえて組合員の不在時にポスティングで済ませるケースも聞かれるようになりました。
- 「JAとは？」という質問に、自分の言葉で説明できない職員も増えています。



協同組合についての教育を受ける機会や、業務で協同活動に触れる機会も減っています

支店長に求められる職員教育

- ▶ 「組合員のどんな願いもかなえられるように総合事業を展開する」というJAの理念を、自分の言葉で説明できる職員づくり
- ▶ 協同組合理念に理解ある職員づくりを進めるために、みずからが地域の願いに根ざした協同活動へと参加し、JAは地域にとって必要な存在だと実感する体験機会の提供
- ▶ JAの認知と事業利用だけでなく、支店職員の成長へもつながっていく教育文化活動の実践

今後強化したい教育文化活動 **トップ3**



出所：4ページと同じ

JA経営層は「職員教育」の必要性を強く意識している

支店の朝礼で『家の光』をもとにスピーチ
・JAあいち中央 新安城支店

『家の光』を活用した支店職員教育の事例

職員が『家の光』を読み込み、講師役となり女性部対象に手芸教室
・JAたじま 各支店

職員による『家の光』持ち寄り読書、職員会議でのおすすめ記事紹介
・JAあつぎ 各支店

「家活チャレンジ」。「家の光」に掲載されている手芸、料理などを支店職員が制作・実践し、成果をお披露目
・JAあいち中央 各支店

支店内に『家の光』特設コーナーを設置。毎月、職員の似顔絵と読んでほしい記事を掲載し、「ぼく・わたしのおすすめ読みどころ」を紹介
・JA京都 峰山支店

雑誌『家の光』と 家の光協会が担う役割

JAの認知 → 利用 → 参加 → 参画 をすすめるには

- 1 まず、組合員(地域住民)にJAの事業・活動を知ってもらうことが必要です。
- 2 そして、利用・参加へとつなげていくために、教育文化活動の実践による対話運動や訪問活動を進めていきましょう。



対話のきっかけには『家の光』の活用を！ 



『家の光』は、組合員や地域住民が知りたい情報、みんなの共通の話題を提供。
信用事業や共済事業をはじめとするJA事業の理解を深める内容も掲載しています。

“『家の光』を読み” “自ら活用し” “その実体験を組合員との対話に活かす”ことが、
支店と組合員・地域住民との関係性づくりに役立ちます。

支店においては、若手職員を対象とした協同組合理念教育のテキストとして
『家の光』を活用しましょう。



雑誌『家の光』は、支店における教育文化活動のテキスト。

記事の活用で教育文化活動を実践できる 

JAと組合員
そして地域住民が
つながるために

家の光事業は、組合員がJAとの関わりを深め、JA運動の主役となるためのさまざまな活動をお手伝いする事業です。

JAと組合員、地域住民の共通の期待や願いをかなえるJA組織づくりをお手伝いします。

「『家の光』を普及する理由」動画のご案内



動画は
こちら
から!

家の光協会では、『家の光』の活用促進動画を3種類ご用意しています。
アニメーションでわかりやすい内容です。ぜひ活用ください!



『家の光』を
普及する理由



『家の光』を
活用する理由
(職員編)



『家の光』を
活用する理由
(女性組織編)